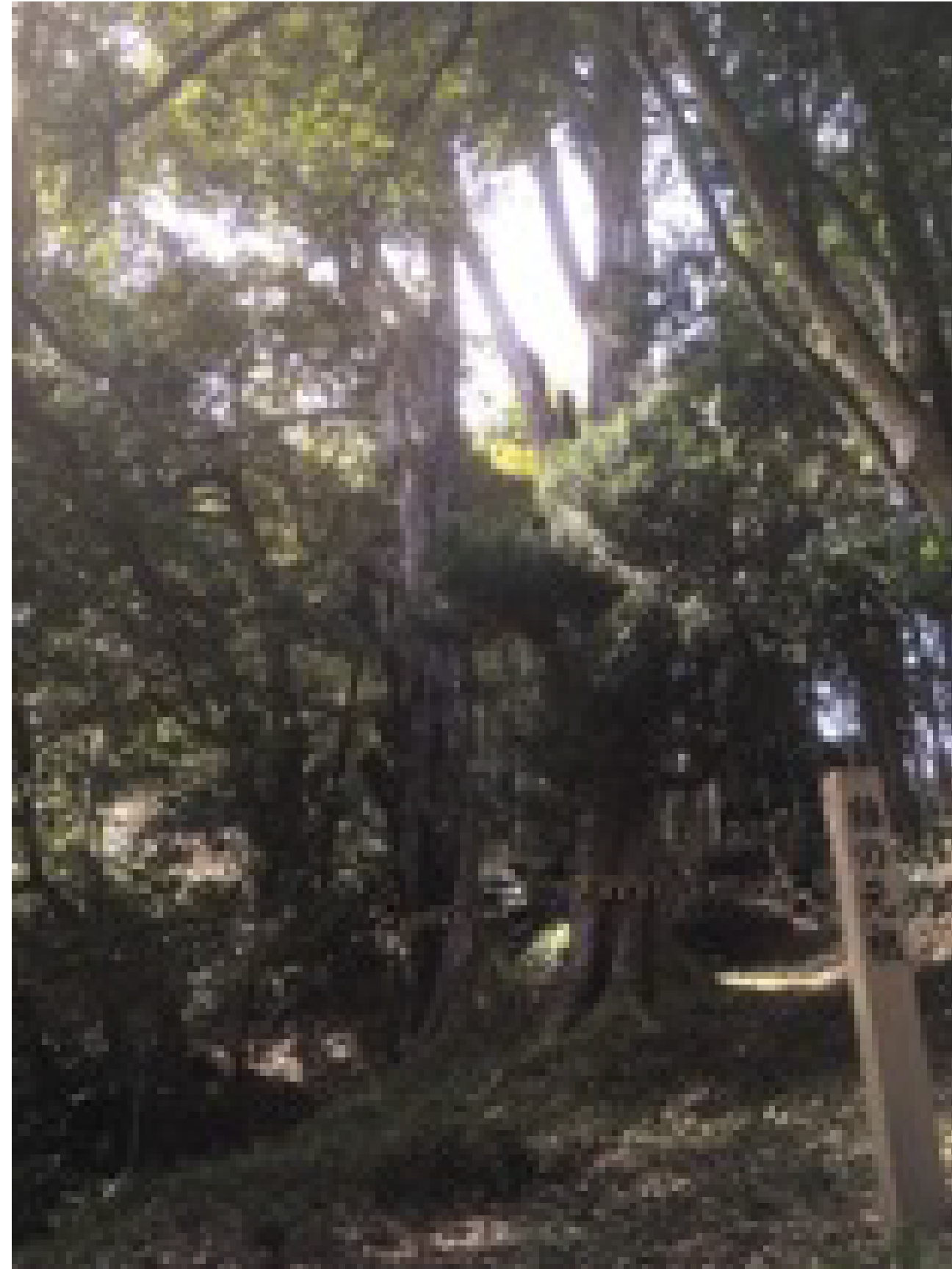




ATE



アテ

樹木「アスナロ」のことを、能登では「アテ」と呼びます。(正確にはアスナロの変種「ヒノキアスナロ」)

門前町浦上のあすなろ公園そばには、樹齢約800年の巨木「アテの元祖」がそびえ立っています。

源義経が匿われたことで有名な奥州平泉より、藤原秀衡の三男である泉三郎忠衡が種木を持ち帰り、1189(文治5)年にこの場所に植えたといわれています。現在、アテの木は能登各地に広く植林され、木造建築や輪島塗の材料として使われています。

「明日は檜になろう」という向上心の象徴として、アテの木は門前町の住民に深く愛されています。